

研究課題名	臓器移植における遺伝子多型の移植免疫への影響解析
研究責任者名	大学院医歯薬保健学研究科消化器・移植外科学 教授 大段 秀樹
研究期間	平成 24 (2012) 年 4 月 (倫理委員会承認後) ~ 平成 34 (2022 年) 年 3 月
対象者	平成 12 年 4 月~平成 24 年 3 月に広島大学病院消化器移植外科で肝臓移植・腎臓移植、膵臓移植手術が行われた患者さん(ドナー・レシピエント)のうち、手術の際に「組織標本の教育及び研究利用について」への同意をいただいた方、および平成 25 年 1 月~平成 29 年 10 月日に広島大学病院消化器移植外科で肝臓移植・腎臓移植、膵臓移植手術が行われた患者さん(ドナー・レシピエント)のうち、ヒトゲノム・遺伝子解析研究「内在性 unlicensed NK 細胞の肝癌再発・予後に対する影響(第ヒ-100号)」又は「腎移植後免疫におけるビタミンD受容体遺伝子多様性の影響(第ヒ-113号)」において同意が得られ検体採取が行われた患者さんおよび、ヒトゲノム・遺伝子解析研究「補体、Fc 受容体における遺伝子多型の移植免疫に対する関わりについて(第ヒ-77号)」において同意が得られ検体採取が行われた患者さんを対象にします。
意義・目的	臓器移植後の免疫抑制療法では、感染に対する生体防御能を保ちつつ、拒絶反応を起こさないことが望めます。臓器移植後の感染症や拒絶反応について、C1qA, FcγRIIIa, FcγRIIIb, IL28B, VDR, Foxp3, KIR の遺伝子多型との関連について解明を進めてきました。 今回我々は、対象を自然免疫関連遺伝子、獲得免疫関連遺伝子や薬剤感受性関連遺伝子に広げ、遺伝子多型が感染症発症率・拒絶反応発生率・免疫抑制剤減量および離脱率などにどのような影響を与えるか検討することを目的とし、この研究を計画しました。
方法	本研究は、ヒトゲノム・遺伝子解析研究です。対象者の血液および臓器から DNA を抽出し、自然免疫関連遺伝子、獲得免疫関連遺伝子や薬剤感受性関連遺伝子の一塩基多型があるかどうかを検査します。また診療録から年齢、血液検査、術式、病理所見、成績(感染症、拒絶反応、免疫抑制剤の投与量、予後)などのデータを抽出し、各遺伝子の一塩基多型の有無が各データと相関性をもつかを解析します。
共同研究機関	なし
試料・情報の管理責任者	大学院医歯薬保健学研究科消化器・移植外科学 教授 大段 秀樹
個人情報の保護について	本研究は広島大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会で審査を受けて承認をされています。研究は、プライバシー保護に十分留意して行います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合は以下の窓口へお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。
問合せ窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 広島大学病院消化器・移植外科 准教授 田中 友加 Tel : 082-257-5222 E-mail: yukasan@hiroshima-u.ac.jp